

朝陽に魚が踊る女川魚市場。

まだ明けやらぬ女川港。市場には煌々とした明りと大きな漁船、そして船のエンジン音とともに威勢のいい男達の声が飛び交います。待ちに待ったサンマの水揚げです。あの大地震からほぼ1年半、大きく様変わりした町にも秋魚の本格的な水揚げ時期を迎え、市場の活気は町の人々にもつながっていきます。そして何より漁業の復活がこの町に輝く希望の光りを与えてくれます。多くの人はきつと「いや、以前に比べりゃまだまださ。でもやっぱり活きのいい魚をこんなに見るとちよっと嬉しいよな」と言うはず。港には多くの漁船が次々と接岸し、様々な魚介類が市場を埋め尽くしてきます。皆汗びっしり。でも笑顔。まだまだ、でも一歩ずつ確実にこの町は動きはじめています。

女川から全国へ。

いま女川町は、漁港の修復や市場設備が昼夜を問わず進んでいます。私たちの喜びは女川産の魚が少しづつ全国の皆様に食べていただけるようになったことです。これらは東京都が、女川の震災ガレキの受け入れを表明してくれたことや、様々な形で女川を支援し応援してくださっている全国の皆様のおかげです。私たち女川町民は、多くの人々に心より感謝を伝えたいと思っています。女川は魚の町、食の町、港町。全国の皆様のくらしに、もつともつと女川産の新鮮な魚をお届けできるように努力していきます。



熱気!復活!
「おながわ
秋刀魚収穫祭」

魚きぼうが町おながわに
帰かえつてきた。

